



小山町制100周年

小山町町制施行100周年記念事業

小山町こども議会の記録



平成24年7月13日（金）開催
小山町こども議会

目

次

- I 町制施行100周年記念事業「小山町こども議会」事業日程・・・ 1
- II 小山町こども議会出席者等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- III オリエンテーションの様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- IV 講義「小山町の成り立ち」の様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- V 小山町長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- VI 一般質問と回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6～16
- VII 小山町議会議長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- VIII 懇談会の様子（教育長講評）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- IX こども議員の感想：議席番号順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19～21



I 町制施行100周年記念事業「小山町こども議会」事業日程

- 1 開催日の決定依頼（校長会にて）（H23.12.5）
- 2 こども議員の選挙及び一般質問概要提出依頼（校長会にて）（H24.5.10）
- 3 こども議長のリハーサル（H24.7.9）
- 4 オリエンテーション（H24.7.13）
 - (1) 議長あいさつ
 - (2) 任書の交付
 - (3) 議員紹介
 - (4) リハーサル
 - (5) 小山町の成り立ち（生涯学習課 学芸員 金子節郎）
- 5 小山町こども議会（H24.7.13）（午後2時05分開始～午後3時09分終了）
 - (1) 日程第1 議席の指定
 - (2) 日程第2 会議録署名議員の指名
 - (3) 日程第3 会期の決定
 - (4) 日程第4 町長あいさつ
 - (5) 日程第5 一般通告質問

①地域の方たちとの交流を深める活動について	足柄小学校6年	今野	嘉人
②河川のごみの対策について	北郷小学校6年	池谷	直規
③学校施設の耐震性について	須走小学校6年	望月	康生
④足柄の暗い所に街灯をつけることについて	足柄小学校6年	稲	夏海
⑤2年前の台風後の対策について	北郷小学校6年	遠藤	さくら
⑥金太郎まつりについて	成美小学校6年	久米	汐里
⑦川前に公園を	成美小学校6年	日比野	史明
⑧通学路の安全について	明倫小学校6年	小野	滉介
⑨富士山ふん火の対さくについて	須走小学校6年	酒寄	奈緒子
⑩商業に対する小山町の考え	明倫小学校6年	中田	杏音
 - (6) 議長あいさつ
- 6 記念撮影
- 7 議員との懇談会
 - (1) 教育長講評
 - (2) 記念品授与
 - (3) 議員とこども議員との懇談会

II 小山町こども議会出席者等

出席こども議員	1番	明倫小	小野	滉介君	2番	成美小	日比野	史明君
	3番	足柄小	今野	禎人君	4番	北郷小	池谷	直樹君
	5番	成美小	久米	汐里君	6番	明倫小	中田	杏音君
	7番	須走小	望月	康生君	8番	足柄小	稲	夏海君
	9番	北郷小	遠藤	さくら君	10番	須走小	酒寄	奈緒子君
	11番	須走小	國友	晴香君				

欠席こども議員 なし

出席議員	1番	阿部	司君	3番	池谷	弘君
	4番	高畑	博行君	5番	桜井	光一君
	6番	渡辺	悦郎君	7番	米山	千晴君
	8番	湯山	鉄夫君	9番	梶	繁美君
	10番	池谷	洋子君	11番	込山	恒広君
	12番	鷹島	邦彦君	13番	真田	勝君

欠席議員 なし

説明のために出席した者

町長	込山	正秀君	副町長	土村	暁文君
教育長	戸枝	浩君	企画総務部長	小野	巖君
経済建設部長	後藤	栄一君	住民福祉部長	土屋	礼二君
教育部長	高橋	忠幸君	危機管理監	新井	昇君
会計管理者	鈴木	哲夫君	政策秘書課長	室伏	博行君
企画財政課長	羽佐田	武君	総務課長	小野	学君
税務課長	湯山	正敏君	健康福祉課長	秋月	千宏君
住民課長	高橋	裕司君	地域防災課長	池田	馨君
建設課長	小野	克俊君	農林課長	遠藤	一宏君
商工観光課長	池谷	精市君	都市整備課長	湯山	博一君
上下水道課長	池谷	和則君	こども育成課長	相原	浩君
生涯学習課長	土屋	和彦君	総務課副参事	山本	智春君

職務のために出席した者

議会事務局長 田代 順泰君

会議録署名議員	1番	小野	滉介君	2番	日比野	史明君
---------	----	----	-----	----	-----	-----

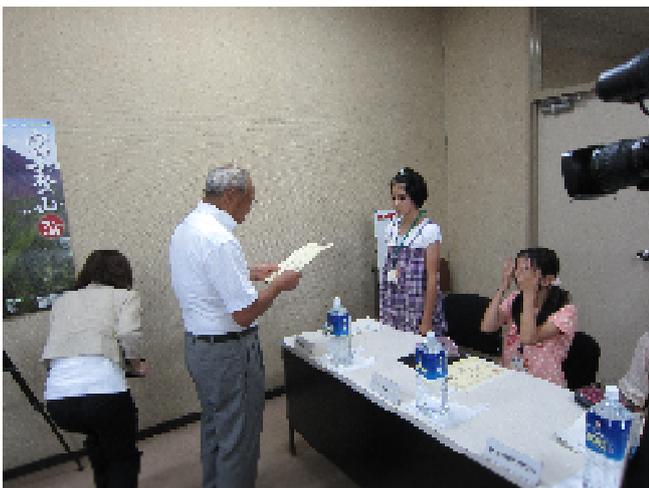
Ⅲ オリエンテーションの様子



▲ 小山町議会議長あいさつ



▲ 選任書の交付（小山町議会議長より）



▲ 選任書の交付（小山町議会議長より）



▲ 小山町議会議員紹介



▲ リハーサル（登壇するこども議員）



▲ リハーサル（元気に手を挙げるこども議員）

IV 講義「小山町の成り立ち」の様子

講師：生涯学習課 金子節郎 学芸員



▲熱心に学芸員の話聞くこども議員



▲生涯学習課 金子学芸員による説明



▲生涯学習課 金子学芸員による説明



▲熱心に学芸員の話聞くこども議員

V 小山町長あいさつ

こんにちは。町長の込山正秀でございます。

今日は、小山町制施行100周年記念事業として、町議会の皆様が「こども議会」を計画してくれました。御参加いただき、ありがとうございます。

皆さんの後ろに本物の議員さんがいらっしゃいます。本物の議員さんは、去年の4月に選挙で当選をされました。皆さんは選挙をせずに当選した議員さんです。私も去年の4月に選挙で当選をして参りました。議会と町長は、二元代表制ということで、町民の付託に応える大きな責務をもっております。

議会は年に4回、本会議をこの議場で開催しています。加えて、臨時議会が必要に応じて開催されません。

3月の議会で、当局側が予算を作って、議会の皆様に審議をしていただきます。議員の皆様に賛成をしていただいて、そして4月から新しい年度がスタートするというところでございます。

そして、6月、9月と議会があり、9月の議会では、前の年に間違いなく予算を使ったのかな、ということも議会で審査していただきます。

そして、12月議会となるわけでございます。

臨時議会につきましては、この7月2日に北郷小学校の北校舎、給食室の耐震工事の入札がありまして、この承認をいただく議会を開かせていただきました。

こうすることで、年に4回の定例会と臨時議会があり、議員の皆様は、大変忙しい使命を果たされております。

今日は皆さんから、多くの質問をいただくと伺っております。

皆さんの発言が、将来の小山町にきっと生きていくと思います。そして皆さんが、素晴らしい思い出を残して帰ることを期待をしております。どうか、町民の代表として、しっかり頑張って、こども議会での発言をお願い致します。



▲ 小山町長あいさつ

VI 一般質問と回答



こども議長 須走小 國友 晴香君



「地域の方たちとの交流を深める活動について」 質問者 (3番 足柄小 今野嘉人君)

地域の方たちとの交流を深める活動について質問します。

6年生では、学級会を行い、地域の方との交流を深めたいという意見が出されました。

小山町では、現在、地域交流を考えた様々な行事が実施されています。しかし、私たちには、まだ小山町でも知らない地域があり、違う学校の人たちや高齢者の方たちのことでは、知りたいことがたくさんあります。そこで、みんなが、交流できる行事を提案します。

①スタンプラリーなどをしながら小山町をサイクリングやハイキングでまわっていく。ハイキングでは、高齢者と一緒に町をまわり、町のことを教えていただくこともできます。

②あまり関わることのなかった高校生と一緒にいるお祭りや運動会。

③町の使っていない畑や田を使って、高齢者の方と一緒に米や野菜などを育てていく。

私たちは、このようなことを考えましたが、今後、小山町としては、町民の皆さんが交流できる行事について、どのようなことを考えていますか。



3番 足柄小 今野 嘉人君

答弁者 (生涯学習課長 土屋和彦)

小山町の未来を担う皆さんから、世代を超えた交流を望む声に大変励まされる思いがしております。

今野議員からの御提案いただいたような、交流事業は、地域の方やお年寄りとのコミュニケーションを保つうえで非常に大事なことと考えております。

はじめに、スタンプラリーをしながらハイキングを行い、高齢者から町のことを教えていただくことについてであります。

皆さんと高齢者の方とでは、体力の違いがあることから、これまでは、行き先や目的を決めて行くハイキングでは、なかなか一緒に参加できる機会がありませんでした。

このため町では、11月ごろ、スタンプラリーを取り入れた町の史跡や文化財を巡るウォーキングを計画しています。

地域の方々と史跡などを巡りながら、歴史や文化財の価値などについて、お話しが聞け、参加した方々との交流も生まれるものと思います。

詳しい内容が決まりましたら、町の広報などで参加者を募集しますので楽しみにして下さい。次に、高校生と一緒にいるお祭りや運動会についてであります。



生涯学習課長 土屋和彦

町では、小山町制100周年を記念して、今年の10月8日の体育の日に町民体育大会を開催します。

地域の方々や高校生、中学生のほか、小学生の種目も計画しています。是非参加してください。

その他にも、10月に行う町民文化祭では、文化連盟の方々から色々なことを教えていただける「体験コーナー」や、100周年記念ソングをみんなで歌う「千人合唱」も計画しています。

また、来年の3月には、皆さんも楽しめる生涯学習フェスティバルも開催します。

このように皆さんが参加できるイベントがありますので、お友達と一緒に参加して楽しんでいただくことで、多くの方との交流が生まれるものと考えます。

答弁者（農林課長 遠藤一宏）

地域の方たちとの交流を深める活動についてのうち、高齢者の方と使われていない田畑を活用することについて、お答えします。

今野議員からご提案のありました、高齢者の方と一緒に米や野菜を育てるという取り組みは、とても素晴らしいことだと思います。

農作業を行うことで、心身ともに健康になることはもちろんのこと、食べ物の大切さやそれを育む自然の素晴らしさを学ぶとともに、高齢者の方々には生きがいを感じる取り組みになると思います。

また、使っていない畑や田を活用するというアイデアは、農地を守っていく対策として、今とても求められている取り組みになります。

現在、全国では、使われていない農地が、約38.6万ヘクタールもあり、埼玉県の総面積に匹敵する農地が耕作されてない。小山町では約85ヘクタール、学校の校庭85校分もの農地が使われていないのが現状です。

さらに、農家の方々が高齢化しており、今後ますます使われない農地が増えてしまう心配があります。

そのために、新たに農業を目指す若い人々を育てることも大変重要です。

今野議員の御指摘のように、地域の高齢者の方と農作業を行うことにより、地域農業に関心をもついただき、農業を職業として目指す人が、皆さんの中から1人でも多く出てほしいと思います。

現在、小山町では、使われていない農地を活用して、一色・上古城の老人会による、さつまいも作りや、所領の方々によるお米作りなど、地域の方々が中心となって、他の地域から、子供から大人まで広い世代の方々が参加し、農作業を通じた交流が行われています。

今後も、人と人とのつながりを大切にする町であるよう、このような取り組みを進めてまいりますので、皆さんも是非ご参加ください。



農林課長 遠藤一宏

「河川のごみの対策について」 質問者 (4番 北郷小 池谷直規君)

河川のごみの対さくについて質問します。

ぼくは、小山町の水について質問させていただきま
す。ぼくは、毎日、小山町のおいしい水を飲んでいま
す。いつもじゃ口をひねったらでてくるおいしい水が
ぼくは大好きです。

しかし、最近、川の水にいろいろな物が流れたり、
家庭のゴミ等がいっぱい流れていたりします。ぼく
は、そのようなこうけいを見るたびに、とても悲しく
なってきます。ぼくたちはとてもきれいな水が飲みたい
です。そして毎日元気にすごしたいです。自分たちは、
なるべくゴミをださないような工夫をしています。

そこで質問します。小山町の人達は川のごみ等の対
さくとしてどのような事をしてきましたか。また、そ
の対さくをして、どのようなこうかがあるのか教えて下
さい。これで質問を終わりにします。



4番 北郷小 池谷 直規君

答弁者 (総務課長 小野 学)

「川のごみ等の対策として、どのような事をしてきたか」についてですが、普段の業務の中で職員等
が直接川に入ってごみなどを回収することはなかなかできないため、町の主な取り組みとしては、ま
ず、川を含め地域にごみを捨てない・捨てさせないということを町民の皆さんにPRしています。

例えば「ごみは決められた日に決められた場所に出す」などの決まりを作って、町民の皆さんに理解
と協力をお願いしていますが、中にはルールを守れない方もいるため、町がしっかりPRしていきたい
と考えています。

また、町民の皆さんで組織している廃棄物減量等推進委員の皆さんにより、不法投棄の監視パトロー
ルを行って、身近な場所にごみが捨てられないようにしています。

そして、平成8年には、「小山町空き缶等のポイ捨て防止に関する条例」という決まりを作り、この
決まりに違反した場合は5万円以下の罰金になるということも決めています。

それから、須走地区には公共下水道がありますが、他の地区は家庭から出る排水をきれいにするた
めに、合併処理浄化槽という装置を多くの家につけてもらうように、町から補助金を出して、トイレはも
ちろん、お風呂や台所の排水もきれいにして川に流してもらおうという取り組みも行い、町内の川の水
質検査も定期的実施しています。

このような、町や町民による取り組みの効果としては、ごみの不法投棄の防止、川の水質の保全に効
果があるものと考えています。



総務課長 小野 学

そして、池谷議員が住んでいる北郷地域を流れる佐野川
や海苔川の水は鮎沢川に流れ込み、下流の神奈川県へ流れ
ていきますが、この水がきれいで豊富な量もあることか
ら、遠く横浜市や川崎市などへ送られ、約200万人もの
人々の飲み水などの生活水として広く利用されています。
このため、川を衛生的にきれいにしていくことは、小山町
民だけでなく、下流に住んでいる多くの人の生活を支える
大変重要な取り組みでもあり、上流に住む私たちの責任で
もありません。

しかし、池谷議員が言われるように、残念なことに、ま
だ川にごみを捨てられることがありますので、「川や周辺
にごみを捨てない」ということを、さらに町民の皆さんに
PRしていきますので、どうか、こども議会の皆さんにも
協力していただきたいと思います。

「学校施設の耐震性について」 質問者（7番 須走小 望月康生君）



7番 須走小 望月 康生君

学校施設の耐震性について質問します。

昨年3月11日の東日本大震災から毎日のように地震があり、気をゆるめられない日が続いています。この静岡県も東海地震が起きる可能性があり、心配な毎日です。東日本大震災で多くの建物がこわれてしまったため、東海地震でもそんな事が起きるのではないかと思います。そんな緊急時、ひなん場所とされる学校は校舎が古くなっていて、本当に安全かとても心配です。町の方ではなにか対策をとっていますか。

答弁者（こども育成課長 相原 浩）

町内の学校の校舎や体育館は、災害発生時の対策などを定めている町の地域防災計画の中で、地震や台風などの災害発生時の避難所として定められております。

議員御質問のとおり、避難所となっている建物が安全でないという心配があると思います。

建物には、建築基準法という法律で地震が発生しても壊れることのないように、耐震性について基準が定められています。

昭和56年6月1日以後に建築された建物は、現在の耐震基準により建築されており、耐震の基準が満たされているとされております。

昭和56年6月1日より前に建てられた建物については、地震などに耐えられるかの耐震診断を行い、満たされていない場合には、補強工事を行うことになっています。

町内の小中学校の建物で、昭和56年6月より前に建てられたものは、成美、明倫、足柄、北郷小学校の体育館、北郷小学校の北校舎と給食棟、小山中学校の南校舎、須走中学校の格技棟であります。

これらの建物については、平成18年度から順番に耐震補強工事を実施し、耐震基準を満たすようにしてきました。

平成23年度には、須走小学校体育館の建て替えや小山中学校南校舎の耐震補強工事を行っています。

今年度は、北郷小学校北校舎と給食棟、須走中学校格技棟の耐震補強工事を現在実施しております。

これで町内の小中学校のすべての建物について、耐震基準が満たされることとなります。

小学校の校舎については、昭和59年から昭和63年に建てられた建物で、建てられてから25年以上経過していますが、現在の耐震基準により建築されているため、耐震補強をする必要はありません。今後は、計画的に修繕などを行い、皆さんが安心して学校生活を送ることができ、また災害発生時に避難所として使用できるように、していきたいと考えております。



こども育成課長 相原 浩



「足柄の暗い所に街灯をつけることについて」 質問者 (8番 足柄小 稲 夏海君)

足柄の暗い所に街灯をつけることについて質問します。

足柄小学校の6年生は、「便利で快適なまち作り」に向けて学級会を行い、「足柄の町には暗いところが多いので街灯をつけてほしい」という意見が出ました。

足柄には、山道やせまい道が多くあります。先日、交通安全リーダーと語る会でも、冬の4時30分頃には、暗くて歩くのが不安になる道がある、暗いところにいる時に、車や自転車が来ると気づきにくいので、事故にあいそうになったことがあるなどの話が出ました。

また、私が冬の5時頃に妹とおつかいに行った時、街灯が点滅している所や、街灯と街灯の間隔が広すぎて、光が届かない所があることに気づきました。街灯をつけた後の整備や、節電も考えながら、暗くなってしまう所がないようにしてほしいです。

足柄は、自然がきれいなどとてもいい町なので街灯をつけて、さらに明るくて安全で自然がきれいな町と、言えるようなすてきな町にしてください。



8番 足柄小 稲 夏海君

答弁者 (地域防災課長 池田 馨)

「足柄の暗い所に街灯をつけることについて」であります。町内の街灯は、皆さんが交通事故や犯罪に遭わないように、見通しの悪い交差点やカーブ、あるいは暗い所などにつけています。その付ける場所によって、町が付れたり、皆さんが住んでいる地域のお金を使って付けています。

町が付けるものを「街路灯」、地域の皆さんが付けるものを「防犯灯」といいます。

この防犯灯を付ける時には、一定のルールの中で、地域の区長さんと町が付ける場所を確認しながら、話し合いをしています。地域と町が「この場所には防犯灯が必要ですね」と決定した場合には、電灯の器具は町から地域へ差し上げ、付けるのに係ったお金の一部を町から補助しています。

さらに、付けました防犯灯の電気料の一部についても地域へ補助をしています。

このように、地域の防犯灯は、町内全体では、約2千100基、その内、足柄地区には約260基が、付けられ、管理されています。

稲議員の御質問にもありました足柄地区ですが、自然が多くある地域であるため、木々も多く、暗い場所もまだ多く残っています。

おつかいなどで外へ出かけたときは、暗くなる前に寄り道しないで早く家に帰ったり、なるべく、明るく、人通りがあり、通行にも安全な道を選ぶなど、自分たちの安全は自分で守ることも心がけてください。

町では、稲議員をはじめとします、地域の皆さんから防犯灯の要望がありましたら、現地を確認し、区長さんたちとも相談したうえで、まわりの環境のことも考えながら、防犯灯を付けることを進め、暗くて危険と感じるような場所が一日でも早くなくなるよう、これからは努力していきたいと考えております。



地域防災課長 池田 馨



「2年前の台風後の対策について」 質問者 (9番 北郷小 遠藤さくら君)



9番 北郷小 遠藤 さくら君

私は、2年前の台風後の対策について質問します。

一昨年、2010年に、とても大きい台風、台風9号が、小山町に来ました。今でも、小山町の人々が被害にあって苦しんでいると思います。私が住んでいる阿多野地区では、阿多野の源泉の貯水池が、決かいしてしまいました。そのため、阿多野自慢の水菜が作れなくなってしまいました。直す作業を進めてもらい、こちらのほうは直りました。ですが、なかには、まだ、直せていない所や、家を建てたばかりなのに、被害にあってしまい、大変な思いをしている人達がいると思います。それ以外のケースも考えられます。お金の面も含めて、困っている人達のためにどのような対策を、しているのでしょうか。

また、これらすべてが直るのは、いつごろでしょうか。

答弁者 (建設課長 小野 克俊)

平成22年9月8日の台風9号では、町の中の道路や川、橋、学校校舎、農地、水道管など294箇所が壊れ、その被害額は約65億円という大きなお金でした。

その内容は、道路が崩れ通行止めとなり、回り道をしたり、川に土砂がたまり田んぼに水が入らなくなり、1年間お米の栽培ができなくなったりしました。

被害のあった箇所につきましては、元のとおりに戻すことが、決まっておりますが、ただ、直すだけでなく、川の流れの速さを変えたり、道路の補強をしたり、橋に木が止まらない様に、中間にある柱を取り除き、スムーズに流れる構造にしながら、同じ様な災害が起きないように、復旧工事をしております。

期間は平成22年から3年以内を目標にしていて、現在約80%程度が終わっています。

工事に必要なお金は、国からの補助金と町民の皆さんの税金などで直しています。

また、今回の台風災害により、川沿いの家では、川の増水により家に水が入り生活が出来なくなった方もいらっしゃいます。

その方々へは、早く元の生活に戻れるように、静岡県と町よりお見舞い金や、皆さんからの義援金等をお渡しいたしました。

このように、災害復旧工事は、小山町役場の仕事の中でも、最優先に行っています。これからも町では、1日も早く元の町の姿に戻るよう、工事を進めてまいります。



建設課長 小野克俊



「金太郎まつりについて」 質問者（5番 成美小 久米汐里君）

金太郎まつりについて質問します。

わたしは、毎年行われる金太郎春まつりと夏まつりを、とても楽しみにしています。

かき氷などの食べ物おいしいし、輪投げなど楽しい遊びもあります。また、地いきの人たちと交流を深めることもできるからです。

でも、金太郎まつりは、春と夏しかありません。もし、秋と冬にも金太郎まつりがあれば、もちろんわたしは行きます。秋と冬にも金太郎まつりを行うことで、もっと生き生きとした小山町になると思います。ぜひ、金太郎秋まつりと冬まつりを行ってみたいでしょうか。



5番 成美小 久米 汐里君

答弁者（商工観光課長 池谷精市）

春と夏に行われる金太郎まつりは、多くの町民に愛され、そして親しまれてきました。町制100周年の今年は48回目を迎え、今では小山町に欠かせないお祭りとなっています。

昨年からは、「日本一の富士山」があることと、「金太郎生誕の地」であることを、内外に強くアピールしていくために、お祭りの名前を「富士山金太郎まつり」に改めました。

御質問の「金太郎秋まつり」と「金太郎冬まつり」の開催についてであります。 「金太郎まつり」の名前は付いていませんが、小山町では秋から冬にかけて、様々なお祭りが開催されています。

秋には、毎年9月に足柄城址がある足柄峠で、小山町と神奈川県南足柄市とが協力して「足柄峠笛まつり」を行っています。

このお祭りは、武勇の達人でありながら、笙という笛の名人でもあった新羅三郎義光の云われにちなんだお祭りとして、笛塚の供養や両市町の小学生の代表による綱引き大会などが行われ、小学生による綱引き大会では、勝った市町が、足柄城址の一部を自分の領地として1年間主張できることになっています。

また、新年を迎える元旦には、小山町観光協会の皆さんが「足柄峠・金時山DE初日の出」というイベントを行っています。

これは、足柄峠と金時山山頂で、初日の出を拝み、参加者がその年の健康と幸せを願うイベントで、参加者には記念のピンバッジが配られることもあり、静岡県はもとより神奈川県などからも多くの人が訪れ、大変な賑わいとなります。

その他にも、小山町商工会による「産業祭」や小山町文化連盟による「町民文化祭」など、一年を通してお祭りが行われています。

そのため、「金太郎秋まつり」と「金太郎冬まつり」を新たに開催する予定はありませんが、現在行われているお祭りについて、関係する皆さんと話し合いを持って、町民の皆さんが更に楽しめるお祭りとなるよう工夫をして参りたいと考えております。



商工観光課長 池谷精市

「川前に公園を」 質問者（2番 成美小 日比野史明君）



2番 成美小 日比野 史明君

川前に公園をについて質問します。

ぼくは、川前住宅に公園をつくることを提案します。

その理由は、住宅に住む子供が、よく道路で遊んでいるのを見かけます。もし、車にはねられたりしたら、とても大変です。公園をつくることで子供たちが安全に遊べる場所ができるとぼくは、思います。

川前の新しい住宅には、小さな子供がたくさんいます。公共の公園を作り、小さな子供に楽しんで使ってほしいです。

この理由から、川前住宅に公園をつくることを、ぼくは提案します。

答弁者（こども育成課長 相原 浩）

川前住宅の場所は、これまでは、富士紡績株式会社で働いている人の住宅や病院などが建っていました。今から2年前の平成22年に、土地や建物など不動産を扱う会社が、42区画の住宅用地に分けて整備し、家を建てたい人達に土地を売りました。

既に42区画全部が売れていて、今ではたくさんの家が建っています。

日比野議員ご指摘のとおり、道路で遊ぶのは、大変危険です。

新たに公園を作るためには用地が必要ですが、川前住宅には残念ながら、皆さんのがのびのび遊べる公園を、つくる場所がないと思います。

町内には、59か所の町の公園があります。少し遠くて不便かもしれませんが、川前住宅の近くでは駿河小山幼稚園の横にある小山公園や、成美小学校の横に豊門公園があります。

また、健康福祉会館の前のイベント広場や3階のふれあいルームや成美小学校の校庭も使用できますので、安全な公園などの施設の中で、思いっきり遊んで欲しいと思います。



こども育成課長 相原 浩



「通学路の安全について」 質問者 (1番 明倫小 小野滉介君)

通学路の安全について質問します。

最近のニュースで登校中の小学生の列に車がつっこむというものが話題になりました。また、わたしたちは交通安全リーダーと語る会という行事において、区長さんや警察署・地域防災課の方に、通学路の危険か所を伝え相談にのっていただき、安全な登下校について深く考えさせられました。そこで、「通学路の安全確保について」小山町ではどのような考えをもっているのか教えてください。

さらに、わたしたちの明倫地区には、道路がせまい上に、車がスピードを出してくるような所があり不安です。わたしは、ある新聞の記事で浜松で取り組んでいる「ゾーン30・グリーンベルト」という車のスピードをゆるめる効果のある取り組みを見ました。そういった取り組みを取り入れてもらえないでしょうか。また、他に解決できるような方法はないでしょうか教えてください。



1番 明倫小 小野 滉介君

答弁者 (地域防災課長 池田 馨)

はじめに、「通学路の安全確保について、小山町ではどのような考えがあるのか」についてであります。

町では、平成23年度から平成27年度までの交通安全に関するいろいろな事業などを定めた、第9次交通安全計画をつくり、その中で、通学路についても、歩道の幅を広げるなど、歩きやすく、安全を確保できるように、整備を進めています。

しかし、町内の状況を見ても、通学路の整備が必要な箇所がまだまだたくさんありますので、危険度が高い道路から優先順位を決めて、警察や地域の方たちとも相談しながら、計画的に整備を進めていきます。

次に「浜松で取り組んでいる「ゾーン30」、「グリーンベルト」を町でも取り入れてもらえないか」についてお答えします。

「ゾーン30」は、皆さんの生活に密着した道路内のある区間を、最高速度を時速30キロに制限し、2車線を1車線にしたり、入口に、速度規制の標識を設置したり、注意をさせるものです。国では、平成28年度までに全国で約3千箇所を整備することを目標にしている、静岡県では、101箇所、その内、御殿場警察署では御殿場市で2箇所、小山町で1箇所の整備を目標としています。現在、町の整備箇所は、決まっていませんので、今後、警察、地区等と話し合っ決めていきます。

また、歩道が整備されていない路側帯を緑色にカラー化する「グリーンベルト」につきましては、地域などからの要望があったときは、その道路の管理者と話し合いをし、必要であれば設置していきたいと考えています。

そのほかの対策としては、警察による新たな横断歩道の設置や、道路の管理者が歩道をつけたり、広げたりする方法があります。

また、道路にハンプという低いかまぼこ状の障害物を設置することで、車のスピードを落とさせる対策などもあります。

これらの様々な対策の中から、それぞれの通学路に何が必要で、一番効果的であるかを検討し、通学路の整備を進めていきたいと考えています。



地域防災課長 池田 馨

「富士山ふん火の対策について」 質問者 (10番 須走小 酒寄奈緒子君)



10番 須走小 酒寄 奈緒子君

富士山のふん火の対さくについて質問します。

わたしたちが通っている富士山のふもとにある須走小学校。そして、わたしたちが住んでいる小山町から見える富士山は、とてもきれいです。晴れている日には頂上まで見え、小山町のほこりと言ってもいいほど雄大な富士山です。

ですが、最近テレビなどでも耳にする富士山のふん火。わたしの友達は、「富士山ふん火したら須走終わりだよ。小山町もだめなんじゃない。」と心配しています。もちろんふん火はいつ来るかわかりません。でも、だからこそ対さくを練っておく必要があると思います。

富士山のふん火について対さくはとってあるのですか。また、どのような対さくを考えていますか。

答弁者 (危機管理監 新井 昇)

はじめに、「富士山のふん火について、もしもの事を考えて、対策をとってあるのですか」についてであります。

小山町では、今から8年前の平成16年に富士山火山防災マップを作り、町内のすべての家庭に配りました。今でも、小山町に転入され、希望する方には、配布しております。

これは、富士山が万が一噴火しそうになったり、噴火が始まったりした時に備えて、皆さんが自らの安全を確保するためにどのような知識を学び、どのような行動をすればよいかを知ってもらうためにつくり、その内容は、富士山が噴火した時の溶岩流などが流れてくる範囲や避難所の場所、避難する時の服装や注意事項などが書いてあります。

また、平成18年からは、富士山の噴火に備えて、富士山を取り巻く山梨県と静岡県15市町村で、お互いに連絡や助け合うための話し合いや訓練を行っています。

つぎに、「どのような対策を考えていますか」についてお答えします。

富士山が万が一噴火した場合、その噴火場所によっては、小山町の地域が溶岩流の被害を受ける可能性があります。

また、風向きによっては、大量の火山灰が降ってきます。

これらから身を守るため、町民の皆さんには、安全な場所にいち早く避難してもらうことが必要となります。

しかしながら、約2万人の町民の皆さんが一度に避難することは、交通渋滞が起こったり、避難所に多くの人が集まって溢れたり、大変、難しいこととなります。

このため、町では、避難する場所の指定、避難するために使用する道路、避難するための乗り物の準備などを地区毎に、具体的に示した計画を作って、皆さんに説明し、理解して頂き、普段から富士山が噴火した時の避難準備をお願いしていきたいと考えています。



危機管理監 新井 昇

「商業に対する小山町の考え」 質問者（6番 明倫小 中田杏音君）

商業に対する小山町の考えについて質問します。

わたしは小山町の商業をもっと活性化させたいと考えています。そこで3つ質問があります。

1つ目は、小山町で商業について今、力を入れているところはどんなことですか。具体的活動等あれば教えてください。

2つ目は、小山町の特産品としてすでに商品化されているものはどのくらいあるのですか。また、今後新しく特産品として売り出そうというものはありますか。

3つ目は、わたしの家では買い物というと御殿場や遠くの方に行きます。小山町にはなぜ、大型の店やショッピングモールがないのか、また、そのような店をつくる計画はないのか教えてください。



6番 明倫小 中田杏音君

答弁者（商工観光課長 池谷精市）

はじめに、小山町の商業で力を入れている事についてです。

小山町には現在、「ふじおやま」と「すばしり」の二つの道の駅があり、農家の皆さんが心を込めて育てたお米や野菜をはじめ、町内の商品やお土産品が数多く並び、国道246号や138号を利用するお客様にとっても喜ばれています。

二つの道の駅を訪れたお客様は、昨年度の合計で約220万人を超えており、小山町の人口約2万人から考えると、110倍ものお客様があったという事になります。

町では、この二つの道の駅を活用して、小山町の農産物や商品をピーアールし、更に多くのお客様に来ていただけるよう、努力しているところです。

次に、特産品についてです。

小山町の特産品といえば、冬になると食卓に上る水かけ菜や、清らかな水を利用したわさび、皆さんの学校給食にも使われているお米のこしひかり等、とてもレベルの高い農産物が特徴です。

また、金太郎や富士山にちなんだ小山町らしい魅力を持った伝統的な商品として、商工会で認定している「おやまブランド」が現在30品目ほどあり、この他に、道の駅で作られているオリジナル商品も20品目以上あります。

町内のお店では現在も新しい商品の開発や研究をしており、これからも新しく開発される商品は増えていく見込みです。

小山町では、こういった各商店の取組みを応援し、イベントなどでも積極的に紹介しています。

次に、大型のお店についてです。

例えば大きなデパートや、複合型のショッピングモールなど、皆さんが良く御存知の大きな店は、大都市の中心や地方都市の郊外などに多数出店していますが、いずれも共通しているのは、人口が多い地域という事です。

小山町には、約2万人の人たちが住んでいますが、人口が多い地域ではないこともあり、今のところ大きな店が出店する計画はありません。

町では今年度、商工会と協力して、5千円で6千円分使うことができる「プレミアム商品券」の発行や、秋には、町内のお店の品物を皆さんのお宅へ届けるサービスを試験的に実施します。

このような事業を通じて、皆さんが町内のお店で便利にお買い物ができるようなまちづくりを、今後も商工会と協力して進めていきます。



商工観光課長 池谷精市

VII 小山町議会議長あいさつ

皆さん、こんにちは。

ただいま、町内5校の6年生10名の皆様から、御意見、御質問等いただきました。大変ありがとうございました。

今回のこども議会は、町議会を体験していただくという意味で、こども議長の発言や進行については、町議会と同じようにしており、難しい面もあったかと思えます。

今回のこども議会で感じたことは、皆さんが身近な事によく目を向け、まず問題を見つけていることを大変素晴らしく思っております。

さらに、自分なりの解決策を提案していたことに、皆さんの郷土愛を感じることができ、大変うれしく感じております。

このこども議会での皆さんの素晴らしい態度、真剣に考えていただいた質問、その1人ひとりの素晴らしさに、敬意を表したいと思います。

結びになりますが、このこども議会の開催に当たりまして、大変お骨折りをいただきました各小学校の先生方をはじめ、関係の皆様、並びに当局の皆様方には、この場をお借りいたしまして、心から厚く御礼を申し上げます。

どうか、このこども議会が契機となり、皆様の町政に対する関心がより一層高まることを期待し、祈念しながら、私のあいさつとさせていただきます。

本当に大変ありがとうございました。



▲ 小山町議会議長あいさつ

VIII 懇談会の様子



▲ 教育長講評



▲ 教育長の講評を真剣に聞くこども議員



▲ 議員とこども議員との懇談会

教育長講評

「こども議会から」学んだこと

教育長 戸枝 浩

小山町制100周年記念行事の「こども議会」が7月13日に行われました。

町議会は町の最高議決機関ですから、大人である私たちも議会が開催される日は大変緊張します。ですからこども議員さんも緊張して議台に向かうものだと思っていましたが、どの子もしっかりしていて大変に素晴らしかったです。特に議長役の國友晴香さんは落ち着いて堂々と議事を執り行っていました。

あとで報道陣の方からこども議員さんに「大きくなったら町議員になりますか」という質問が出ていましたが、こども議員の態度や発言内容から、そのような質問が出るのも当然だと思いました。

小学校では6年生の12月から日本の政治について学びます。その時に今回のことが役に立つでしょう。

「こども議会」に参加されたみなさん。これからも勉強や運動に夢中になって頑張ってください。そして小山町で育ったことに誇りを持ち、それぞれの立場でキラリと輝く個性を発揮する大人になってほしいと思っています。



▲ 記念品授与（小山町議会議長より）

IX こども議員の感想：議席番号順

1番 明倫小学校 6年 小野滉介 「もう一度議会に」

議会場を見た瞬間、部屋の広さと向かいあって並ぶ席の形、その不思議な空間に圧倒されました。たくさんの人の中でしゃべったのは覚えています。どんな風に演だんでしゃべったのか緊張のあまりよく覚えていませんでした。

家に帰って、父や母にいろいろ聞かれ、その時のことを話すうちに、とてもすごい体験をしたんだと思いました。さらに、学校でゆっくりその時の映像を見ると、自分はこんなすてきな場所で発表させてもらったんだと改めて感激しました。

ぼくの質問に対して、地域防災課長の池田さんが答えてくださいましたが、明倫地区だけでなく小山町全体での取り組みを学び、もっと大きな面で交通安全のことを知らなければならないと思いました。将来本当の議員さんになって、議会に出てみたいです。



2番 成美小学校 6年 日比野史明 「小山町こども議会」



「ドクッ、ドクッ、ドクッ。」役場の階段を上がる度、きん張が増していく。今日は、小山町100周年記念事業小山町こども議会だ。すると、「これから、リハーサルを始めます。」と係の人が言った。議場のトビラが開かれた。目の前に広がる、宮でんのような議場。議長がぼくの名を呼んだ。ぼくは質問文を読んだ。失敗ばかりでメチャクチャだ。本番が気が気でならない、そんな気持ちだった。

心配の中むかえた本番、トビラを開けたら、さっきはいなかった町長や、人らがいた。ぼくの番がジリジリせまってくる。ついに、呼ばれた。ぼくは、手がふるえながらも、「川前に公園を」について質問した。すると、答弁が返ってきた。土地が無いので、きやっ下されてしまった。しかし、この議会で学んだ事を、今後児童会にいかしていきたい。

3番 足柄小学校 6年 今野嘉人 「こども議会に参加して」

ぼくは、「小山町こども議会」に参加し、議会室に入り、クラスで考えた質問をさせていただき、とてもよい経験ができたと思います。ぼくは、「地域の方との交流を深める活動」について質問しました。町の方の回答は、「交流行事は、体力のちがいががあるので、考えていませんでしたが、機会があればやりたい。」というもので、とても分かりやすく伝えていただきました。他の学校の、いろいろな考えも、みんなのために考えているなと思いました。議会が始まる前には、富士山のことを教えていただき、小山町についての知識が広がったと思います。

この「小山町こども議会」で学んだ知識をいろいろな所で活かし、自分が学んだことを、もっともっとクラスや学校の人たちに伝えていきたいです。



4番 北郷小学校 6年 池谷直規 「おどろきときん張の中のこども議会」



こんなチャンスはめったにない。ぼくはそう思い、町制施行100周年記念のこども議会に参加しました。数日前から質問内容を考えて準備をしました。そして会議の当日です。最初におどろいた事は多くの議員の方々がぼく達をむかえてくださった事です。そのきん張の中、任命書をいただき、いよいよ会議の始まりです。ぼくは、河川のゴミ対さくについて質問しました。ぼく達が大人になっても、小山町自まんのきれいな川であってほしいのです。町としては、かんばんを立てて、ぼく達の良心にうたえていません。小山町を守るのは、ぼく達一人一人なのだ気付きました。他のこども議員も、小山町をよくするための提案を上げて、会議はとても有意義な時間でした。このぼく達の提案で小山町が今まで以上に住みやすい所になってほしいと願います。

5番 成美小学校 6年 久米汐里 「こども議会」

わたしは、町制施行100周年記念事業の、小山町こども議会に出席できて、とてもうれしかったです。とくにうれしかったのは、役場の課長さんたちが、わたしの質問に対して、とてもいねいに分かりやすく説明してくれたことです。普段めったに経験できないことなので、ゆっくりはっきり、分かりやすく話すことを心がけました。

町制施行100周年記念事業小山町こども議会に出席できて、とてもいい思い出になりました。



6番 明倫小学校 6年 中田杏音 「わたしは議員」



原こうを読み直してみんなを待ちました。議会というもののイメージがなく、とにかく人の前で話すのだからしっかりやらなければという思いでいました。リハーサルのために議会場に入ると、その独特の雰囲気さらに緊張が高まりました。

本番になり、わたしは質問者として最後だったので、少し落ち着くことができました。文章をできるだけゆっくり読もうと心がけました。ところが、あとでビデオを見てみると、大きな声は出せましたが、下を向いてしまい、こんなに緊張していたんだと気づかされました。今回議員という特別な立場を体験させていただいて、小山町をもっと良くしていくためにこんな風に小山町議会が行われているのだということ学びました。本当に貴重な体験をさせていただきました。

7番 須走小学校 6年 望月康生 「こども議会を体験して」

こども議会に参加して、良かったと思うことがたくさんあります。その中でも、他の人の質問、提案を聞いたのは、とても良かったと思いました。他の人の小山町に対する考え、地いきに対する考え方が分かり、「他の人は、こう思っているんだ。」と思い、関心することもありました。また、町の人の答弁も、しっかりと質問に答えてくれて、ふだん聞けないようなことも聞けて良かったです。

中には、いくら子供でもなっとくいかないような答弁もあったけど、それはそれできちょうな体験ができて良かったです。



8番 足柄小学校 6年 稲 夏海 「こども議会に出席して」



私は、「小山町こども議会」に足柄小の代表として出席しました。始めは、「どんな所なんだろう、大勢の人にみられるのかな。きんちょうするのかな。」と不安でした。

議会をする部屋に入った時は、今まで見たことのない雰囲気広がっていて、驚きました。議長のすわる席や議員の私たちがすわる席が、とても特別に見えました。

議会が始まると、人が多くなりました。「こんな状況で、きちんとと言えるかな。」と不安に思いましたが、落ち着いてしゃべることができて、ほっとしました。私が議会で伝えた、「街灯を増やすこと」が実現してくれたらうれしいです。

私は、これからも議会に出られたことを誇りに思い、これからもいろいろなことを学習していきたいです。

9番 北郷小学校 6年 遠藤さくら 「良い経験」

私は、町制施行100周年記念事業「小山町こども議会」に出席しました。私は、この日までに、文を読むときに気をつけることやこども議員の人たちと、声をそろえて言うことなどの練習をがんばってきました。ついにその時がきました。文を読むとき下ばかり見るのではなく、前もむかなくてはいけないので、句読点などの後に2秒ずつおいて、前を見るようにしていました。ですが、前を見た後、どこを読んでいるのか、わからなくなってしまったのです。一生けん命、読んでいた所をさがし、ようやく見つけたと思ったら、時間がたってしまっていました。かまわず、私はつづけました。私はその後、かなしくなりました。こども議会がおわり、家に帰っておちこんでいる私を見て父がどうしたのか、とききました。私はあったことを話すと父は、「それも良い経験だよ。」と笑ってくれました。



10番 須走小学校 6年 酒寄奈緒子 「初めて味わうきん張感」



わたしは最初、役場に入った時、あまりきん張しませんでした。でも、議場に入ったしゅん間、「うわーっ。」とすごくきん張しました。わたしが発言する順番は最後から2番目の9番目でした。思っていたよりもどんどん進んで、1番目、5番目そしてわたしの前の8番目まで来た時、わたしはすごくドキドキドキしていました。発言場所に立った時、学校では味わった事のないきん張感でした。でも発言を始めたら、あっという間に終わってしまいました。終わってから先生やお母さんに、「上手だったよ。」と言われたので、うれしかったです。すごく貴重な体験ができたのでよかったです。

11番 須走小学校 6年 國友晴香 「こども議会の議長として」

わたしは、小山町こども議会のこども議長を務めさせてもらいました。「ブー。」その音が鳴った時はすごくきんちょうしました。議場に入ったらびっくりしました。わたしの席の近くには大人の方がたくさん。それでも、がんばって台本を読み、議会は閉会しました。

わたしは、議会が閉会したあと、あらためて勉強になったなと思いました。とてもいい人生経験になり、くらしの事もきちんと考えられるようになりました。

小山町100周年、第1回のこども議会・議長としてこれからも勉強も生活もともにがんばっていきたいと思います。





町制施行100周年記念事業
「小山町こども議会」の記録

平成24年8月発行
小山町議会